

地蔵盆に関するアンケート調査（コロナ禍への対応） 結果のご報告

地蔵盆は近年、地域のコミュニティ形成の観点からも再評価されています。7月上旬より今年の地蔵盆のご予定、及び近年の開催状況等についてアンケート調査を行ってきました。回答にご協力くださった皆さま方に感謝申し上げますとともに、結果について報告させていただきます。昨年に引き続き新型コロナウイルスの影響により地蔵盆の開催の可否を含め実施のご判断に苦慮されているご町内が少なくなかったと拝察します。当調査の結果が今後の地蔵盆のあり方を考える上での一助になれば幸いです。

調査主体 : 京都大学大学院 人間・環境学研究科 前田研究室

実施責任者 : 前田昌弘（京都大学 准教授）

実施時期 : 7月上旬～8月10日頃

実施方法 :

①WEB アンケート 以下のHP等においてWEBアンケート回答フォームを公開した

- ・実施責任者（前田昌弘）の個人HP
- ・京都市文化市民局文化財保護課 京都をつなぐ無形文化遺産HP
- ・京都市文化市民局地域自治推進室 自治会・町内会 & NPO おうえんポータルサイト
- ・（公財）京都市景観・まちづくりセンター Facebook ページ

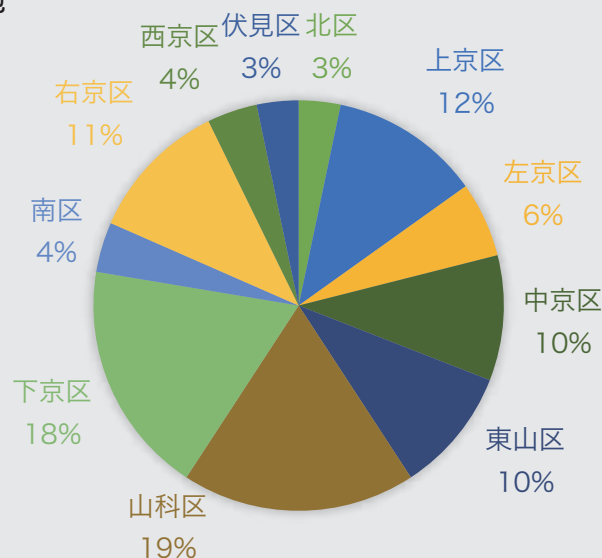
②調査票の配布

京都市文化市民局地域自治推進室を通じて依頼し、各区・支所（計14箇所）のまちづくり担当者から地域の地蔵盆関係者へ調査票を配布した（各30部、計420部）。

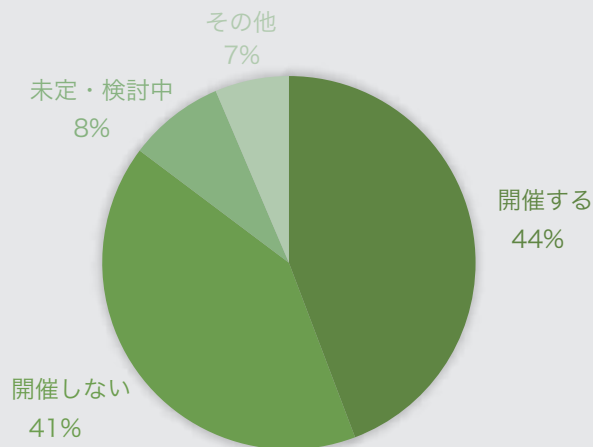
有効回答数 : ①WEBアンケート 31件、②調査票 121件、①+②合計 152件

ご回答頂いたご町内の所在地

(n=152)



今年、地蔵盆は開催されますか？ (n=152)



「開催する」が4割強、「開催しない」が約4割、「未定・検討中」が1割弱であった。

「開催する」と回答された方で、地蔵盆を行う上の工夫などあれば教えてください（複数回答可）。



行事は中止、世話役と町会長がお寺にお参り、粗供養を配る。

役員3名のみで、お寺さんの読経のみ実施。そのほか、子供には図書券とお菓子を配付する。

お寺さんのお参りだけ

密集を避けるため、通りごとに来場時間を設定する。

お寺さんの読経は役員のみ参列。子ども達には、せめてアイスクリーム配りや、ジュース配り、マクドのチケット配布などはしたいと思っています。密にならない為、班ごとに時間をわけて、お菓子をもらいに来てもらうようにします。

祠前での僧侶の読経のみ

会長・副会長とで各家庭を廻る

開催する場合も行事の短縮や簡略化、分散により「密」を避ける工夫をしている。

「開催しない」「未定・検討中」と回答された方、その理由を教えてください（複数回答可）。



ワクチン接種が、行き届いてないからとの不安感が強い。

自治連合会から言われているため町内会員でも意見が割れていて検討中

コロナ感染の状況が把握しづらい

感染が収束しきっていない中での開催はリスクがある

学区の夏祭りが中止になったことにならう

長期的視点から考える事が重要で、現在の状況の中で開催を急ぐ必要性はないから。

子供が少ない為、30年以上開催していない。

町内会役員の負担が大きい。小学生、子どもの数が減少している。

感染拡大への不安。町内で適切な感染防止対策が行えるか。

今年の地蔵盆の開催について町内の世話役や役員の方で話し合われたことや住民の方からの声など、具体的な事柄があれば教えてください。

○子供たちの楽しみのためにも、できる範囲で実施

やるならば児童館の前とゆうことも踏まえて簡易に済ませるべき。ないのは寂しいから法要のみ三役員と地蔵係でとり行い子供達にはお菓子の配布のみを行いたいと考えている。

昨年はお地蔵さんの前で有志が集まりお寺さんにより読経していただき子供達には図書券を配りました。今年はお参りは昨年と同じく行い、子供達にはゲーム等を行い午前中には終わりたいと思います。

昨年同様、祠の前で役員のみ参加にて読教、参拝予定。幼児、小学生、中学生に対して町内会より図書カード、お菓子を配布する。町内会員様には全家庭に福引きに変わり、商品を配る。

全くやらないというのは心情的にも落ち着かないので、とりあえずはできることはやるという点は一致しました。昨年との違いはほとんどありませんが、子どものおもちが昨年は無く、子どものお祭なのに可哀そうだという意見が出て配布することにしました。

子供たちが楽しみにしている行事なので、お菓子は配ることにした。昨年は、読経のみだった。

昨年は開催しなかったもので、今年も感染防止のため中止を検討していた。子供会の役員さんから子供達が楽しみにしているので、開催したいとの意見が出た。そのため話し合いをもって行事内容、参加者を限定して開催する予定です。しかし、今後の状況によっては中止する事もあります。

コロナ禍でも出来る活動を検討した。子供達へと各家庭への配付という方法に変更した。

人が集まることを避けたいけれど何もないのは寂しいので、子どもにおやつと粗品、お年寄りには和菓子を配る予定。

前年度と同じく、テントを張るのはやめる。お地蔵さんの飾りつけはしない（例年、祠の前の空地にテントを張り、祠よりお地蔵さんを出し、段飾りでお花、お菓子、果物をお供えしていました）。今回は子どもに500円位のお菓子を渡す。お下がりとして、全世帯に調布（お菓子）を配る。防災の水1ℓ2本、全世帯に配る。

○感染への不安の声をふまえて中止を決断

役員総会においてコロナ禍の最中、住民の安全を十分に確保できないため中止を決定した。

年度初めの総会において話しあった。高齢者が非常に多く感染すれば大変である、かき氷等の飲食が発生するので危険であるということから安心・安全が確保できない為、中止としました（昨年も中止しています）。

役員会において今のコロナ状態で開くべきではないとの決定しました。

自治連合会より中止の要請あり。中止をふまえて話し合いはしてない。

ワクチン注射が終わっていない人が半分近くおられ、念の為、密をさけた。

中止は役員会の判断。町内からは異論は出ていない。

○町内のさまざまな意見を踏まえて決断

緊急事態宣言や蔓延防止措置が相次いで発令される中、本行事の開催をどうするか話し合ったところ、役員からは昨年同様に完璧なコロナウイルス感染防止対策を行った上で是非とも実施したいとの要望があった。町内会の方々には町内会費を載しているも他の行事が中止となり多くの予算を繰り越している。その繰り越し予算を子供福引きや各家庭福引きに充て、内容を充実させようとの合意を得た。

今年は開催したいという意見と、やはり見合わせたいという意見があった。狭いテントの中に子どもたちが密集するのはリスクがあり、役員の判断で中止とした。

子供がいるご家庭は、子供の楽しめる場を工夫してでも持てればというご意見もあるが、開催の決定場では高齢の組長さんが多いので、感染の危険を冒してまでもという判断から中止になった。

○行事を縮小・簡略化して開催する

新しく町内会に加入された方や若い世代の住人との数少ない貴重なコミュニケーションの機会を失わない為にも最小限の形での存続をとの声を尊重しました！！

学区の運動会やサマーナイトが中止になったことにより、昨年に引き続き役員のみで開催することにしました。昨年は中止の意見もあったが、行事継承のため少人数でも開催することに意義があると思い行いました。

緊急事態宣言が出ていたので去年は行わなかった。毎年子供行事をして盛大にやっているが今回はかなり縮小。

町内会三役にて話し合いを持ち、去年と同様に縮小した形で開催することを決めました。

- 1、新型コロナ感染防止を徹底する。
- 2、最小必要限の行事のみを実施する。

新型コロナウイルス感染予防の観点から、規模を縮小して、昨年同様数珠廻しの中止、お供えも無しにしました。

京都市にまん延防止等重点措置が発令され感染者数が激増している状況に鑑み、どこまで縮小するのか、どういう形が良いのかを役員のほか地蔵盆に詳しい方と相談しました。

このコロナ感染の状況では、無理に例年通りの内容で開催しなくても良い。よって簡素化した。

短い時間で済ませる様にする
(1日、午前中のみで開催する)

時間、内容を簡略、縮小化しての実施。

○お参りのみ

令和3年度の地蔵盆は昨年同様とし、町内安全、子供達の健全育成を考え、お地蔵さんの清掃、お寺さんのお詣りのみ実施することとした(任意参加)。テントを張ってのイベント、子供達の遊びについては中止とする。

例年のように2日に渡っての開催をやめ、お弁当やビンゴゲームなど、人が集まる催しをやめた。お地蔵さんのお参りのみとし、数珠回しもしない。

昨年は、飾りは、僧の読経のみ。子供対象のゲーム等はなし。多分今年も中止とまではいかず、去年の様になると思う。

昨年度は平日に子どもぬきでお参りのみ行いました。大人の人々は、参加されましたが、三密、マスク着用などおそなえ、御供金などをそえて、10時にお坊様にきていただきました。今年度も昨年同様に開催します。

今年も今後の感染状況により検討中である。多世代が集まる行事なので感染リスクが高まることから昨年同様お飾りとお参り、参加者も限定した上で行う可能性が高い。

昨年同様、子供達への行事（福引、おやつ配布、足洗い等）を中止し、地藏堂前にて住職（僧侶）、町三役のみでコロナ対策を十分に配慮して、読経のみで実施。

国からまん延防止等重点措置が出たので、昨年と同じように、お寺さんによる念仏で最小限のお飾りですることになりました。人数も町会長様と組6人中4名です。

新型コロナウイルス感染症の拡大（収束に至っていない）のため今年も昨年同様に町内会全体としての大日如来祭は行わない。ただし今年はお寺様と町内三役のみで奉拝。

新型コロナウイルス感染症の拡大（収束に至っていない）のため今年も昨年同様に町内会全体としての大日如来祭は行わない。ただし今年はお寺様と町内三役のみで奉拝。

役員によるお坊さんを招いての法要のみ。町内会員や子供を集めての地藏盆は行わない。

○お参り+配りもの

お飾りとお防さんのお参りを行い、日用雑貨のつめあわせを各家庭に配布。子どもには図書券をくばる（基本的に所定の場所に取りにきてもらう）。

昨年同様、内容を簡素化し、密をさけるためゲームなどはなしとします。お地藏様を設置し、おみやげを配布するのみとします。

役員三役（会長、副会長、会計）でコロナワクチンが未接種の人も多く、学区の夏祭りも中止になった。このことから昨年同様、例年の地藏盆はせず子供におやつ配布、全戸にお下がり配布、お寺さんに来ていただき祠の前でお地藏様にお経をあげてもらおう（立ち会いは三役のみ）。今年のお下がり是非接触ポストインできるようにそばまんじゅうをゴミ袋に変更する。

昨年と同様に縮小開催とする（1日だけ）
・町内会役員のみでお地藏様のお飾り
・読経
・役員よりお子様のおられるご家庭にお菓子を配付
・お供えは頂戴しない
本来は2日間。中止したこと、提灯かざり、行灯書き、飾り、福引、ヨーヨーつり、ボールすくい、パフォーマンスの手配、供物のお下がり配付、お供え金等

前年度と同様、コロナ禍につき子供達及び町内皆様の参加する行事はすべてなく代表役員（2～3名）での寺院によるお参りと各家庭への「まんだら」と「ゼリー等のお品」を配布することにしております。各家庭からの特別お供えはなし。

・昨年同様内容を見直し、午前中で終了する。
・飲食や子供のゲームなども密になるのでとりやめにする。
今年の内容
・尼講さんご詠歌（3人で時間も短縮20分程）
・子供のおやつ
・景品、大人のおやつ
・景品、敬老おやつはご町内の組ごとに時間配分し受け渡しをする。（密を避けるため）

昨年度は中止したが、今年度はお地藏さんへのお参り（午前中）、子供への図書券の配布、自治会員へのゴミ袋の配布とした。

昨年度は読経以外に子供達だけでもお菓子配りをしようかと話し合ったが、小さい子を持つ母親に聞いてみると受け取りを拒否する方が多く諦めた。今年度も昨年度と同じく、読経と金券を配布する事にしています。

○お菓子、御供養等の配りもののみ

今年は7月2日に三役さんと世話役で、今年の地藏盆について話し合いの場を持ちました。この日までに、近隣の町内の情報も、出来る限り集めて、開催の可否の参考にしました。何町内かお聞きした中では、100%開催しないとの事で、もし自分達の町内だけが、そのような状況の中で開催すれば、外から何を言われるかわからないという意見があり、それがコロナとも相まって、中止の決め手になったと思います。又、今年は、昨年度は何もしなかったのですが、本年度は同じ中止でも、子供（小学生以下）のおられる家庭にのみお菓子をお盆に配ろうという事にしました。これも、地藏盆というものから子供（大人も）の意識が離れるのを防ぐ効果があると思うからです。

現状では昨年と同様、町内ではお飾りしない。各家から「お供え」を頂かない。行事は中止、子供へのお菓子等も配らないが、町費からお寺さんへのお布施（お地藏様を預かっていただいている為）が出ているので粗供養は町内に配る。

昨年も中止し、該当児童に図書券を配布した。今年度も中止し、昨年と同様の措置をとることに決定した。役員会と地域委員で協議した。

地域役員で決める。役員で飾りもの、子供達のおやつをくばる。費用が少し余るため使用する。

昨年も中止し、該当児童に図書券を配布した。今年度も中止し、昨年と同様の措置をとることに決定した。役員会と地域委員で協議した。

○代わりの行事を実施

本来、地藏盆と夏祭り（納涼祭）は別個の催しですが、小塩町では町内親睦を図ることを目途として、同日に開催してきました。昨年度、コロナ感染拡大防止の観点から、従来の飲食を伴う納涼祭は中止し、花火大会を開催しました。今年度についても実行委員会で検討された結果、昨年度同様の催し（花火打上げ）とするものです。

世話役の方々と、作業協力の話し合いを行います。ご意見は色々在り、極端に「なぜコロナ禍なのに地藏盆するの？」と、現状の「巣籠り・閉じ込み」日常で在るが故にこそその意見。「少子高齢化だから、子供さん少ないので、開催の意味がない」との、否定的な声も在る中で、その様な状況だからこそ、其れこそまた閉塞だからこそ沈滞せずに、閉塞や衰退の【地藏盆】を考えるのは間違いであり、大人こそ【昔は子供の時代を経て、今日子供を見守る事が大事】と訴えて、其処で、【お地藏さんと地藏盆】の「パンフレット」をつくって、全世代を網羅して町内で、お盆とか【地藏盆】の意義を理解し合う機会創りから始めて居ます。…地藏盆の知識継承を具現化して、無形伝統文化遺産として心差しの意識を高揚維持させたい…

○そもそも簡素化したので例年通りの方法で実施

コロナ前（約5年前）より子供（小学生）がいなくなり、お地藏を出してのお飾りはやめて、午後に町内にある貸会議室（飲食の出きる）で2～3時間、大人の集会に変更しています。お地藏が設置されている所でお寺様の僧侶が読経します（約30分）。この時、町内の大人が参拝します。

町内にもう10年間くらい子供がおりません。お地藏様の前に希望者が集まり、仏僧を招いて読経と法話をさせていただくという形式で行って参りました。昨年に続き、今年も同様に行う事になると思います。

○コロナ以前から縮小傾向だった。これを機にやめるという声も・・・

世話役内ではやめたい人が多く驚いた。この機になくしていきたくらいの人もいた。特に子供がいない通りの役員。

コロナ禍が気になる。町内が小さく、子供たちもほとんどいない。高齢者が多く地蔵さんの移動（別祭壇）が大変である。

用具を保管する場所の費用負担が過大化している。

子供の為にするのに子供がいない。

昨年度より地蔵盆は開催しない旨決定しています。第1の理由は、この地域の子どもがとても少ないことです。加えて、各家庭の都合（塾や習い事、クラブ活動等）が優先され、参加しない子供が多いこと、外孫さんの参加の方が多いこと等、開催の意味が無くなっています。そもそもおまつりするお地蔵様もありません。町内会の役員の負担ばかり増えており、開催をとりやめることとなりました。

地蔵盆対象の子供の数が少なく、準備、かたづけ、地蔵盆行事に時間と労力をかけたくないという住民が増えた。

高齢化、子供減少、全戸配布に不満もあった。

○責任問題、風評に対する懸念

新型コロナウイルス感染、まん延防止重点措置が解除されたと言っても既に今年度の地蔵盆について会議を重ねて来た結果、参加者（子ども達）の安心・安全に自身が持てない。責任の所在を追及されると尻ごみ致します。地蔵盆行事は町内会で子ども達が縦割りで交流し楽しい一日を過ごす事が目的ですが、役員初め住民の理解を得る事は大変厳しいものがあります。当然屋外の祠の前での行事ですので、目的達成はむづかしいですが、人数制限をしたら又、広いスペースで開催すればと思うのですが？

新型コロナ禍の中、もしも開催して、コロナ感染者が出た場合、町内役員で責任が取れない為。

昨年も中止。今年も役員と話し合った結果、もしもの事があれば町内会の責任になるので中止を決定した。

1. 地域のほとんどの諸行事が中止されている中で、伝統的行事だからといって、「地蔵盆」だけ開催するのは、いかがなものか。 2. 今年だけが地蔵盆の日ではない。世情が落ち着いた時期に開催すれば良い。 3. 現実問題として、「三密」は避けられない。（盛り上がらなければ、「お地蔵様」も喜ばれないだろう）。 4. クラスタが発生した時の問題はもちろんだが、それと共に「風評」も大変怖れる。 5. 昨年度と同様に、町役（会長、副会長、会計）のみで、住職に依頼して念仏を唱え、感謝の意を伝える。

昨年来発出された3回の緊急事態宣言はそれなりの効果がありましたが、解除とともに気が緩み、リバウンドをくりかえしています。オリンピック関連でも解るように完璧な感染予防は不可能であり、また、変異ウイルスにより若年層の感染が拡大していますので、住民の命と健康を守るため、学区内の各町内に本年の地蔵盆は中止するよう通達しました。

○感染対策を行ったうえで開催

役員会で協議・決定された項目（住民からの声は毎年特にありません）。①コロナ感染防止の為、お寺の本堂内での数珠廻し・ゲーム・アトラクションは実施しない。②お寺の庭園内でマスク着用の上、お菓子配り、ビンゴ抽選実施。③お地藏さんへは距離をとって般若心経を唱えて参拝。④町外居住の「外孫」へは今年は招待案内を出さない。⑤町内会員への福引を実施しない。町内会員からの地藏盆御供も依頼しない。

1. お茶（ボトルのみ）の提供以外は一切の飲食は行わない。2. 10時から14時に時間短縮し、役員以外の大人と子どもの人流を分ける。
3. 10時（大人が般若心経の地藏前読経）、11時（子ども福引）、12時30分（家庭福引）
4. テント大、小を倉庫に収納。

昨年、今年とも、子供達に¥1,000.-の買物券を配りました。地藏さんに僧侶のお参り、自治会の皆様のお参り、子供達のお参りを、密集にならないようお願いすることにしました。

従来は期間として1日、及び夜間の福引等を行っていたが、午前中のみ、且つ組ごとに来られる時間を割りふって対応した。昨年、今年とトーンは違うものの、高齢の方は、本当に実行して大丈夫か？といぶかしがる方がいた。

- ・子供と大人の参加する時間を別々にする。
 - ・マスク着用、大きな声を出さない。
- （2年続けて止めることはできないから、工夫して実施する）

本年度の開催にあたり、世話役間の話し合いや準備作業の分担などを検討した。昨年度の中止に鑑みて、例年通りのプログラムの再検討を重点的に行い、コロナ禍を前提とする、縮小版地藏盆とした。開催予定日までに5回程、世話役の会合を重ねる事とします。縮小版地藏盆を目途に、行事の限定と時間管理のために世話役のコロナ禍対応担当を決め、感染予防対策管理票で地藏盆参加者の協力とチェックシートの整備を行う。予防対策として【手洗い⇒アルコール消毒⇒検温健康チェックシート⇒チェックシートの検証と確認】を参加者全員について把握し、経過の報告を徹して、開催を宣言した。

地藏盆としての宗教行事は存続。祠の前でのみ大人のみ参列して僧侶の読経のみに限定。子供の参列は禁止する。子供へのお菓子配りは事前に調査票を配布し、続経後に委員が待機しておやつ配布。経費については「お供」が無いため町内費用で賄う。地域としての「地藏盆行事」は絶やしてはならない。

○感染対策が困難であるため中止を決定

昨年も地藏ほこら前にて役員のみで勤行をした後、各家庭に品物を届けることにした。毎年ビール、食事等用意し派手にパーティーをしていたので密になると困るのでおもいきって中止とした。

昨年に引き続き本年度も中止と致しました。準備段階、開催にあたり、密もさげられず感染防止策がとれず、猛暑の中マスク着用は熱中症のおそれもあり、安心安全の確保が不可能です。

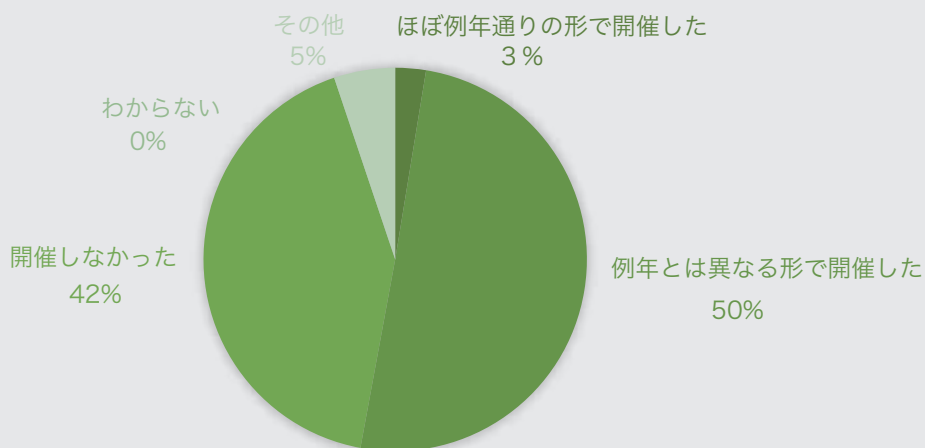
どうしても密になるため、空間がとりにくいのので昨年同様今年も中止になりました。

○中止・・・，今後への不安

昨年に続きコロナ禍で自治会・町内会・学校行事がほとんど中止。その中で地藏盆は行おうという訳にはいきません。私たちの町内会の子ども、赤ちゃんから小学6年生全員で4名(世帯数74件)。世相の通り高齢者激増です。数年前から、地藏盆は子供の為という事ばかりでなく、町内を守って頂いている「町内のお地藏様」という考えで取組み町内の人達に伝えてきましたが、昨年も中止、今年も中止ということになりました。あらゆる行事が中止に追い込まれ、まだ続くコロナ感染！各町が人の交流ということに対して倒壊寸前！お地藏様のお世話役の人選も難しく、私の子供の頃は、大きな行燈や小さな行燈も皆で作り絵も書いた。町内全員で楽しんだ。それも2日間目一杯楽しんだ。楽しい思い出が忘れることなく浮かびます。新しい家が建ちマンションが出来る。お地藏様のお付き合いだけでなく町内会がどうなっていくのか心配です。

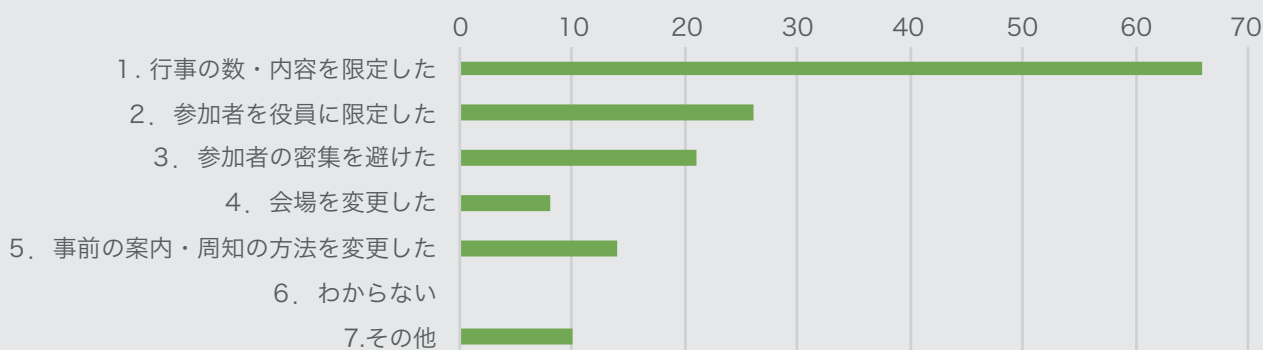
開催するか否かのアンケートを5月末に実施し、開催しないと6月上旬に決定しました。うちの町内では2日目のお昼ごはんは世話係の人が作ってくれたカレーライスを食べています。さすがに大人数での飲食は不安という声が多く、中止にすれば、来年度再びカレーを作る事が難しくなるのでは？という声もありました（副引やお菓子くぱりとかのみの開催をした場合）。

昨年、地蔵盆は開催されましたか？ (n=152)



「例年とは異なる形で開催した」が5割, 「開催しなかった」が約4割であった。

「例年とは異なる内容・方法であるが開催した」場合、具体的にどのような点が異なりましたか？ (複数回答可)



町内ではお飾りをしない。

役員だけでお寺にお参りをした。

参加者は役員、子どもとその保護者のみとした。

おやつ代、図書券を配布した。

祠から地蔵さんを出さず掃除と僧侶のお参りにとどめた。

お寺さんのお参りだけ

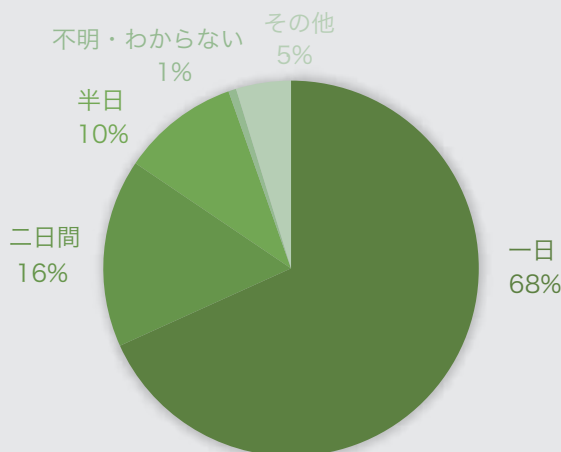
行事の内容を縮小し、参加者の密集を避ける工夫を行った。

該当者に図書券を配布。

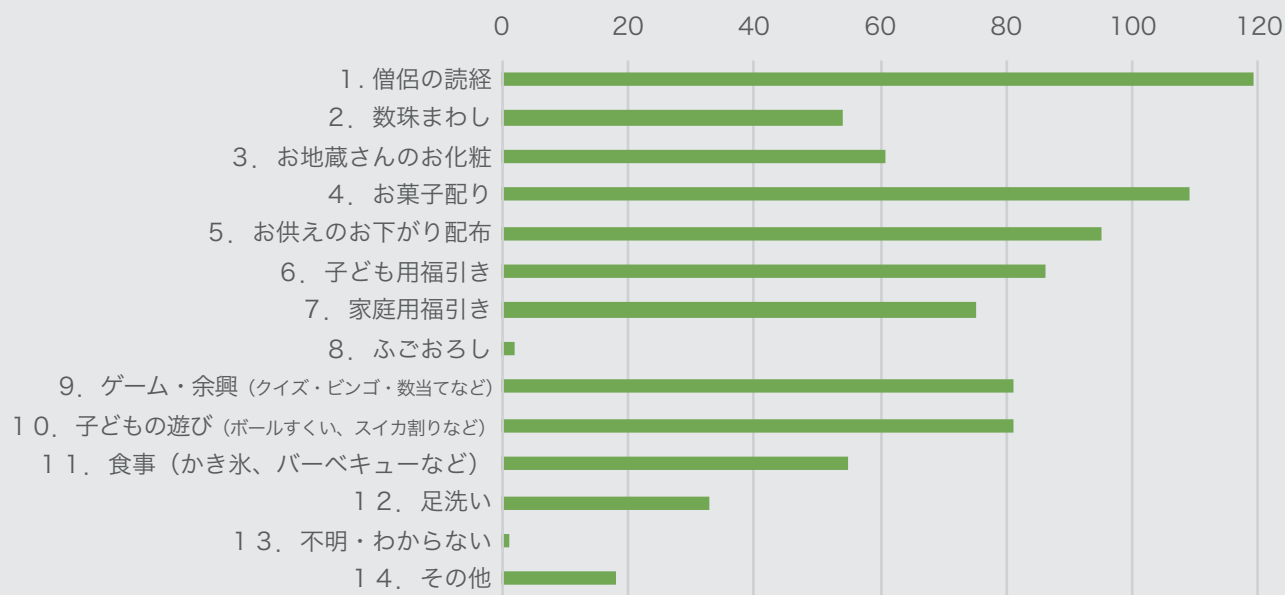
子供のおやつを配布した。

昨年は開催する場合も行事を簡略化する, 参加者を限定する, 集まらずに配りものだけをする等, 密を避ける形で行った。

例年の地蔵盆についてお尋ねします。一昨年は何日間開催されましたか？（n=152）



一昨年の地蔵盆で実施された行事について教えてください（複数回答可）

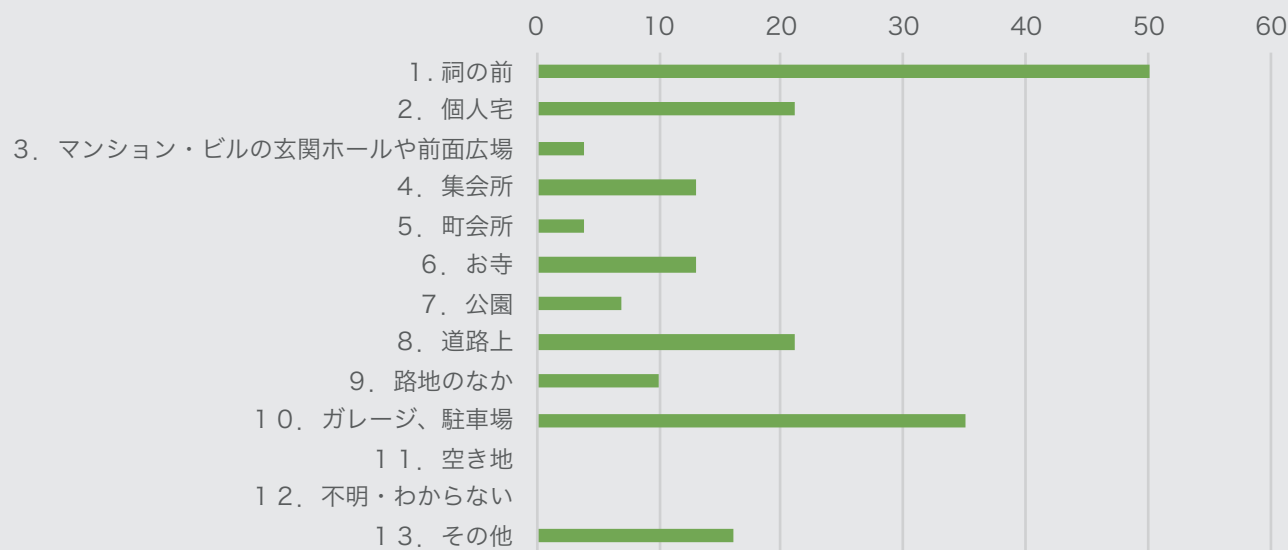


「その他」の内容

- ・会食
- ・子供たちに記念品
- ・子供達にクオカードを配布
- ・和太鼓演奏
- ・お地蔵さん周辺の清掃
- ・尼講のご詠歌を唱える
- ・スイカ割り
- ・家庭へのゴミ袋の配付
- ・納涼会（ピアガーデン）
- ・小金の富くじ
- ・食事（カレー）
- ・赤飯と粗供養を配布
- ・宝探しゲーム
- ・花火大会
- ・自治会館で紙芝居
- ・盆踊り大会
- ・予算が残れば足洗い
- ・河川敷で打ちあげ花火
- ・ピアガーデン
- ・防災訓練
- ・お供養の代わりに商品券を各戸配布

読経のほか、お菓子の配布、お供えのお下がり配布は定番の行事。福引き、ゲーム・余興、子供の遊び、数珠回し、お地蔵さんのお化粧、食事も多い。その他、各町内で特色ある行事も工夫されている。

一昨年の地蔵盆で使用された場所を教えてください（複数回答可）。

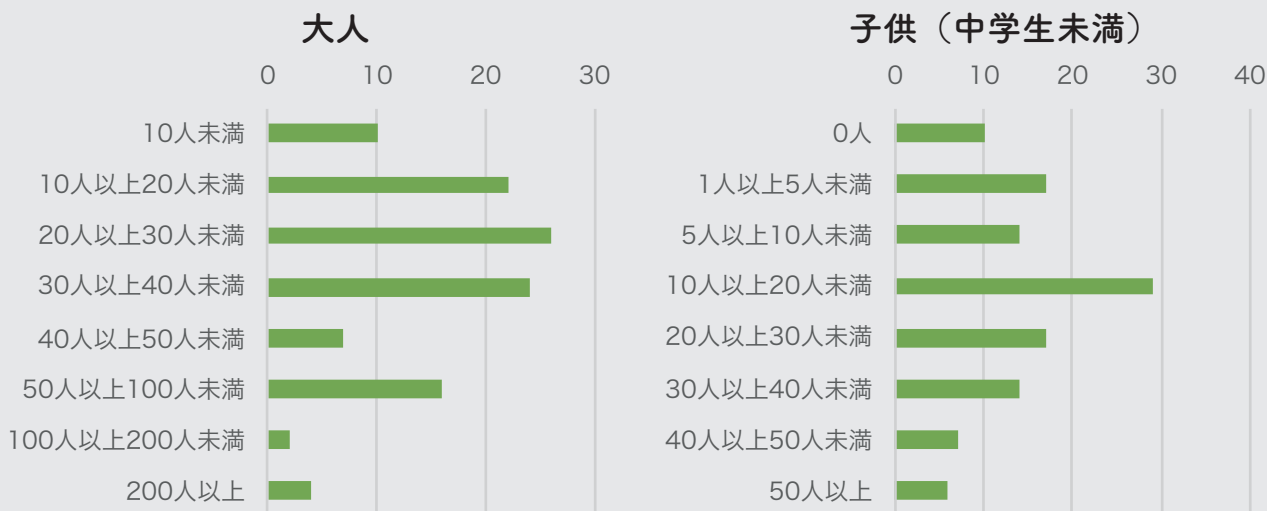


「その他」の内容

- ・ホテルの宴会場にお地蔵様をお運びして僧侶による読経&数珠廻し&会食
- ・会長宅の屋根付き駐車場
- ・道路を通行止めして
- ・児童館の前
- ・会社の駐車スペース
- ・お地蔵さん前
- ・小学校（雨の場合等）
- ・施設のホール
- ・神社
- ・内裏跡広場
- ・町内の会議室

祠の前、個人宅、ガレージ・駐車場、道路上、集会所、お寺等、様々な場所を使用。

一昨年の地蔵盆に参加された方の人数を教えてください。



平均 大人：40.0人 子供：17.8人
 最大 大人：350人 子供：120人
 最小 大人：4人 子供：0人

地蔵盆の参加人数は町によって異なり、規模にはかなりの幅がある。

地蔵盆を今度も続けていく上での懸念があれば教えてください（複数回答可）。



「その他」の内容

- ・ 役員の負担が大きくなり役員になると廃止したがる人が増える、役員のなり手がいない、任意で加入するため地区の半数未満の加入者となっており、退会もある。
- ・ お地蔵さんの安置場所がない。
- ・ 子どもが中学生になると自治会を抜けていく人が多く、年々会員数が減ってきています。また高齢者も役の負担から脱退する人が多く、かなり深刻な問題です。
- ・ 若い人の参加が少ない。担い手の高齢化。
- ・ プログラムを再考する必要がある。
- ・ 世話係の人の高齢化による世代交代がこの2年出来ていないので来年度以降が心配。
- ・ 会場が手狭になってきた。
- ・ 町内住人の高齢化
- ・ 町内会加入世帯の減少、加入世帯においても地蔵盆の際に1日を共に過ごそう、行事に参加しようという意識がある方が少ない。役割があたっている方で実施している状態である。

- ・ 町内会員の減少により予算不足が心配。
- ・ お供えの減少
- ・ 1. 地蔵盆開催の為に経費の確保が難しい。2. 思想的な問題があり、参加を拒否する方もいる。3. 高齢化により、参加を見送る人々も増えつつある。
- ・ 子供を持つ親が無関心になって来ている
- ・ お地蔵さんを日常的に管理、お世話されている方が御高齢になられ、今後、そうした役を担う方がどうなるのか、心配です。
- ・ こども会の6年生保護者が地蔵盆を担当。少ない年は前後の学年保護者が手伝っているが、年々減少傾向になっている。
- ・ 子供が一人もいません。
- ・ 従来の開催場所が使えなくなった。
- ・ 町会員の高齢化
- ・ 将来お飾りが出来るか心配
- ・ 自治会加入者の減少

子供の数の減少、担い手の不足、参加者の減少の他、個別の事情や悩みを抱える。

地蔵盆を継続する、盛り上げる上でやっている工夫があれば教えてください

○大人も子供も楽しめる工夫をする

地蔵盆のあと、町内の大人も含めて参加する懇親会を盛大に行っている。

コロナ以前はお供えで抽選会、おやつ、お茶会、防災訓練などを行っていた。更に当日の夜、親睦を兼ねた足洗を町内希望者全員、近くの店で開催し、食事、飲み会をした。

足洗いは町内の住民間の親睦に大切な行事。単なる飲食でなく、出来るだけ多くの方が会話容易な席配置を考えている。料理も、老人から子供までが楽しめる内容となっている。

地蔵盆の前夜祭に子供花火大会と懇親会を兼ねてバーベキューをする。

うちの町内は2日間しているの、2日目のお昼ごはんはカレーライスをふるまっています。

大人に対する食物の充実、子供に対するおやつの充実。

数年前から、慰労会（あしあらい）として、大人、子供、参加者制限なしで自由に参加していただいている。飲食しながら、年輩者、若者も一緒になって語り合うひとときを、大事にしたいと思います。

祭り等と組み合わせて子供から年寄り世代迄参加出来る取組みを心掛けている。

子供向け防火教室で花火をしている。高齢者にちらし寿司を配布する（取りに来てもらう）。

○地域の施設やお店等と連携する

地蔵盆に参加された方には、町内会が地元飲食店から入手したお食事券を配布する。行事の内容が例年変わらないから、新しい発想の展開が必要である。

交通量の増加等により場所の確保が困難な地域が多いように思う。例えば公立の小学校を場所借りし、複数の町内が行事として並べて実施するなど工夫してはどうか。子供たちも近所の町内の顔見知りと参加できるなど、メリット多し。学区の運動会の地蔵盆版として相当な活気が出るのでは。大人の交流も育まれる。企画者と実行班は大変な作業と思うが。

数年前、地域内に福祉老人施設が建ち、それ以降そちらのガレージを使わせていただき、開催するようになりました。それまでは、個人で商売されている方のガレージを使わせていただいたりしていましたが、それにも限界がありましたので、大変助かっています。そちらの福祉施設の職員の方達にも、色々お世話になり、スイカ割りやかき氷の振る舞い、流しそうめんなど、個人ではなかなか出来ない大掛かりな事も、その方達のご厚意で年によって色々開催してきました。地域内にある法人と協力しあうことで、開催場所の悩みもなくなり、大変助かっています。

2019年はゲストハウスを借りた（無料）。

○役員・世話役の負担を軽くする

昔は手作りの食べ物を用意したが、今は世話人の負担がないよう、スーパー等で出来あいのものを買ってくる。

委員会を多く作り、町内役員が全てを取り仕切らず、部分的に運営を任せられるようにしている。

世話役、町内会長さんの負担を減らす（地藏盆をするならば町内会長をしないという人が増えている）。

お道具を各家に分散して保管（保管のリストを作成）。

今後、行事の数を限定して世話役の方の負担を減らしていく必要がある。

簡素化して役員の負担を減らしつつ、子どもに楽しい思い出を作ってもらいたいと思っている。

現在 32 軒が、地藏盆の会員（地藏会会員という）になっています。3つのブロックに分けて、お世話の役が3年に1回の頻度で回ってくるようになっていました。

地藏盆委員を別に設定して、会長・副会長・会計の三役の負担を減らす。ただし運営は地藏盆委員だけで行うのではなく三役も入って行う。

役員と別にお世話をやいてくれる方を中心に実行委員を作り役割を担当してもらおう。全員参加で準備と後片付けをする！！

地藏盆だけではなく色々な行事の世話をするのが負担になるので、役員を断られる方が多くなってきている（そのために町内会もやめる）。出来るだけみんなで手助けをするようにしています。

町内会の役員に地藏係を設ける。

町内行事として確立し予算化している。世話役は、町内役員と小学校の地域委員が担当しているため1年で役目ゴメンです。特に今まで問題は生じていない。

○運営の方式を見直す

町内の人数が減少してきている為、町内を二つに分けて、交代してお世話をする事にしています。元々は5組ありましたので5年に1度の当番でした。町3役は会長、副会長が13年、会計は10年続けており、捨身で町内の要求実現に取り組んでいる。

通り一辺の地藏盆行事では主役の子ども達も余り喜ばない。地藏盆の行事計画のなかで中学生、小学生高学年を交えて協議し、子ども達のニーズを取り込めるようにする意見交換会が今後は更に必要であると考えます。

町内会員の減少により開催担当班の再編成を行ったりして今後も維持していきたいです。

1. お地藏様を飾る場所を考える（みんながお参りし易い場所の選択）。 2. 夏祭りとの組み合わせはどうか。 3. 複数の町内が合同で一ヶ所に集まって開催する。

当町内は高齢者が増えているが、約4年間は町内会長が決まっており、地藏盆についても役割が決まっています。場所についても以前からある方のガレージをお借りし、地藏さんも向かいにある。先輩方々の指導にもとづき、夜には親睦会もありましたが、今はコロナ中止しています。

○行事の充実、住民の興味関心にあわせた内容とする

町内会員対象の福引を実施し、子供達と一緒にゲーム・余興（アトラクション）を楽しみ、ビンゴゲームを実施する。

防災訓練を兼ねて行っている。消防署に来てもらい、防災の話をしてもらったり消防自動車を見せてもらって子供達にも関心を持ってもらうようにしている。

家庭用福引きや子供の福引きの充実

地藏盆だけでは参加される方が少ないため、親睦を図るため町内夏祭り（納涼祭）を同日開催しています。

毎年世話役が代わるため新しく取り組むことが難しい。昨年どうりで、ということになりやすい。今の時代にあったことが出来ないか考えている。

例年、消防訓練やビンゴ、焼肉等を催しており、この時は多くの方々が参加している。

ボードゲーム等、子供が遊びたいと思うものを購入している。ビンゴゲームの賞品に家庭用品を多くしている。

行事が終わったその夜、ミニ総会の様な夏の夕食会を開いております。

会員が不参加の町内とも近所つきあいの事で話しはするのですが、①メリットが無い、②町内会費（年4,800円）が高い、③当番での仕事が高齢の為出来ないという意見があります。子ども用福引きなどで、子供がよろこぶ内容を工夫しています。

子ども達の安全・安心など、町内の人達とも共有できる事項を行事の一つに入れるよう考えている（例.AEDの取扱い方法など消防に依頼して講習してもらったことがありました）。

○外孫への呼びかけ、参加の雰囲気づくり

町内全体で一体感をだし、この時期は実家に戻ってくるという町内の雰囲気醸成している。

子供を中心にゲームや遊びを工夫するだけでなく、大人も参加してもらうため、かき氷提供や家庭の福引き夜に花火などもとり入れている。特別会員料を設け町内会員の孫たちが参加できるように事前に知らせる。

地藏盆にあわせての里返り（外孫大歓迎）と紳老交流のための工夫を行っている。

町内のお子様だけでなく、外孫様など町外に出られた子供さんも参加してもらっていた。

○日頃からの交流を大切にしている

定期的に交流を持てる活動（野菜の振売等）を主に、日頃の交流を大切にしている。

以前は地域に代々住み続ける方が多かったのですが、転出されたり、新たに入居されたりする方が増え、近年、様々な生活環境や家族構成を持つ世帯が増えたと思います。たとえば、母子ひとり親世帯や高齢夫婦、高齢者の方の単独世帯など様々な世帯、家族のあり方があり、仕事の出勤、帰宅時間も様々になっています。地藏盆などの地域での行事の継続、地域の活性化に働きかけながら人間関係をつくるには、自分とは異なる生活習慣や考えを持つ御近所の方との違いを認め、尊重し、問題や悩みを抱えていても個人情報や私的な所に踏み込まず、見守り、静かに支え、さりげなく声をかけていく事が大切です。

町内住人の平素からの交流。

○マンション住民や若い世代への声掛け

自治会員の世帯だけではなく、非会員世帯を含む、全世帯を対象に地藏盆を行なっている。また、外孫の参加もOKとしている。夜はビヤガーデンを開催し、ビンゴゲーム、じゃんけん大会を行っています。子供コーナーでは輪投げ、スーパーボールすくい、キャラクターすくいを行なっています。

マンションがありお役はされないけど子供達には地藏盆の参加を呼びかけています。

足洗いを1日目の夜に開催しています。若い世帯の方が参加していただけます。

マンションの子ども達が参加してくれるよう声かけをしている。

若い世帯、子供さんのおられる世帯の関心を深める。他府県から移住の世帯の関心を深める。

マンション住人から寄付1口1000円（子供500円）をもらって行っている。

○地藏盆が途絶えないよう努めている

継続するために、お参りだけでも僧侶をお願いして拝んでもらっている。

町内会を維持するだけで精一杯、「地域」という言葉で自助努力を求めるのは限界。文化的な行事は保護をしないと消えると思います。

行事はできないが、地藏尊だけは町内に安置していく努力は続けるつもりである。

時間を短くする。

出来るだけ短時間開催としている。世話役の負担を減らすように簡素化している。年寄が楽しめる内容にする（参加してもらえるように）。

町内会退会者が急増し、役員数が減少している中で催しは役員にも負担がかかる為、夜の足洗い等を簡略化していきたい。

○地藏盆の意義や知識の継承を心がけている

私は47才ですが、自分の子供達も楽しんできた地藏盆を、今の子供達が大人になった時にいい思い出として残るだろうから、同じ年代の大人達も一生懸命になって楽しんでいる。

世話役には代々、次の世話役を心づもりしながら経験をつんでもらっています。

地藏盆を行う意味が希薄となっている。何の為に行なうのか？が本心となる。

町内でお祀りしている疎水辺りの母子地藏はその昔、疎水に落ちる子ども達がいたため地域住民が水難事故から子どもを守る為につくられたお地藏様であるが、今では地域の大切な子どもたちも大人も心の拠り所として手を合わせる。四ノ宮地藏まつりと日をおなじにするなど夏休み最後のおまつりとして町内会上げて継続してきている。

お地蔵さんは普段、どこに安置されていますか？（複数回答可）

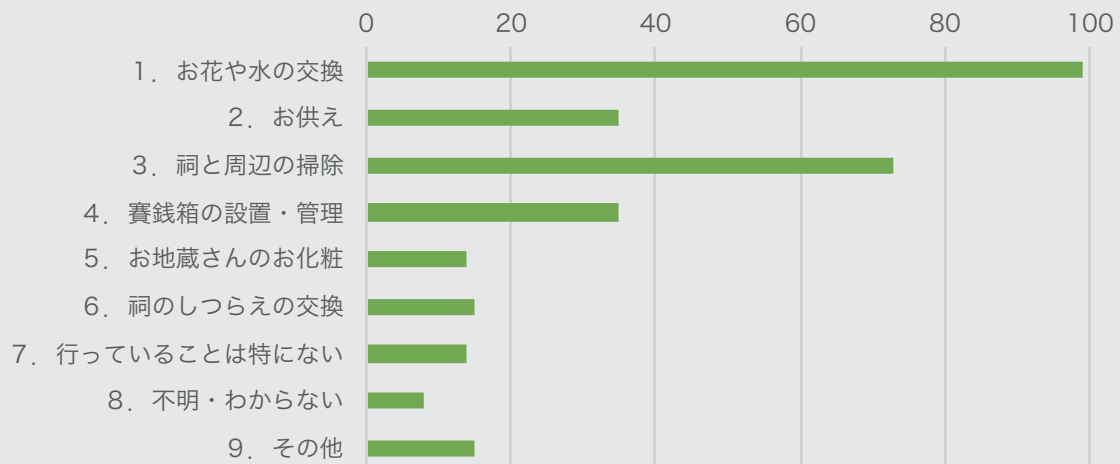


「その他」の内容

- ・お薬師様に預けている
- ・山道、溝の中
- ・以前はあぜ道に沢山並んでおり、木の根に埋もれていっしょにいましたが、そこに新しく建物が建つという事で3年程前に、歩道の一角に移されました。
- ・平安宮内内裏跡広場内
- ・防災倉庫で保管
- ・町内にある公園のなか
- ・町内会長宅

個人の敷地内の祠、道路上の祠をはじめ、町内外の様々な場所に安置されている。

お地蔵さんの管理（お世話）で行っていることを教えてください（複数回答可）。



「その他」の内容

- ・お薬師さまへの御供
- ・お地蔵さんを保管する家の人が行い、町内としては地蔵盆の時だけ。
- ・お寺の方が行っておられます
- ・お地蔵さんの前かけを年一回、地蔵盆の頃にかえるそうです。
- ・町外のお寺に預けている
- ・月ごとに交替で清掃等を実施。
- ・お寺さんへのお参り
- ・子供や孫が生まれたら提灯を新調してお洗をする。
- ・掛軸を出すので何もしていない
- ・町内会員全体で1と3は行っている。週3日～4日の当番、町内会長は月に2回、花を供える
- ・祠の修理

お花や水の交換、祠周辺の掃除など、町内の輪番で実施することも。

町内のお地蔵さんの特徴や謂われなど、ご存じのことがあれば教えてください。

むかし町内の有力者の方が出資して設置されたとの事です。

数年前 NHK が取材に来られ、珍しいお地蔵様と言われました。が、内容ははっきり分かりません。

たしかどこかの家の堀から出て来たという話がありました（不確かです）。

私が聞いているのは町内の工事現場から見つかったと聞いています。時代は不明です。

長らく町内にお地蔵さんはおられなかったが、道路工事（昭和 50 年代ごろ）でお地蔵さんらしき石像が発掘され、以来町内のお地蔵さんとして祀っている。

京都化野念仏寺より頂戴したものと、聞いています。

過去に縁者から浄土院内に移設されたと聞いております。

町内発足時に地域のお寺からゆずり受けた。

明治期、家を建てる時に裏を掘り出したら出てきた。その昔、近くに刑務所が有り囚人の作品かともいわれている。

伝えがありませんので不明です。

いろいろな方が多くお参りされています。

大日如来として 8/28 を中心開催されていますが、お地蔵さんの廻りに炎がみえ、不動明王ではないかとの話もある。

疎水の安朱橋近くの母子地蔵は、謂われ等ありますがこの地蔵さんは、数年前まで誰の手もかけずひっそりしていて、最近、知らない人が時々お花やお菓子をお供えしている様です。もうひとつは 50 年以前、町内の日本画家が 1m×2m の絵（地蔵さん）を描いて掛け軸にした。

昭和 30 年代に開発工事が盛んに進み、住宅建設がブームとなった。土地開発の時に土中から二体のお地蔵さんが発見され、以後、町内会で丁寧に管理する様になったと聞き及んでいます。

町内会の敷地に有ったお地蔵さんで、多分 100 年以上前の物では！

大変珍しい姿をされているので町内会員の皆様も誇りに思っている。

伝えがありませんので不明です。

地元の方が「紙しばい」を作って下さり、毎年子どもたちに読み聞かせ「伝承」しています。

厨子入りの木造の地蔵尊、明治以前の作と思われる（町内所有）。石造（個人所有）。

町内の西にある山のそばにあるお地蔵さんは合計 4 体あり、向かって左はしの物が一番小さく、右はしのものが一番大きく、いずれも将棋の駒のような五角形の形をしており、お地蔵さんの前には竹筒形の花をさす筒が 4 本、その前には小さな水を入れるガラスビンが 4 つあります。町内にもお地蔵さんがあり、右はしに灯ろう、左はしに 4 体のお地蔵さんがあり、向って右から 3 体目のお地蔵さんが最も大きく、いずれも将棋の駒のような五角形をし、花をさす細長い筒が 2 本ありました。

子育て地蔵として有名。

石ではなく木造のお地藏様です。

古い木造の地藏尊です。高さ 30cm 位です。

子どもの頃からお地藏様のみまもり秘話を聞かされてきました。それだけにお地藏様を町内の大事なみまもり尊として大事に祀りたいのですが、どのように引き継いでもらえばいいのでしょうか？

以前は個人敷地内の祠で役員が読経に参加でしたが、一昨年は知人よりお地藏さんを有料で借りる（代¥3,000.-）事で会場に設置する事が出来ました。

公園内地蔵につきましては公園の両トナリの方が清掃その他を行っている。20年ぐらい前から。

お地藏様を安置されているお宅に泥坊が入りかけると、門の前にお地藏さんが立てて追い払はられると言われてます。

祠を建てられた方もすでにお亡くなりになり、その御家族も引越され、今は町内会でお守りしている。

特性、謂れなどは聞いていないが、一昨年、地藏菩薩を作って祀っていた方が、土地をお地藏さんも含めて売却した。「魂は抜いたのでその辺の石と同じ」と言われ解体業者に処分を依頼したらしいが、その辺りの説明を全部私達が町内にしなければならず、大変苦労した。

胃腸にご利益があると聞いています。

竹屋町通に面した方のお地藏さんは北向きで珍しいと聞きました。

地藏堂には文政年間の年号が入っており、先代の方々が大切にお世話を実施していたことが伺える。

町内在住の方の別の場所にあったお地藏さんを現在の場所に設置された。

町内の地藏菩薩とは別に、路地の住民のみで大日如来を別途祀って現在まで存続している。当時は相当子供が多かったようだ。

地域の地藏盆について、お考えやお気づきの点など（自由記述）

子ども達の思い出作りに、ふる里作りに地藏盆行事は必要不可欠と考えています。京都の各町内の役員様たちはコロナ感染対策をしっかりと行えば何がしかの地藏盆行事はできるはずです。子供たちために、また各町内の発展のために是非とも実施して戴きたい。

やはり京都では地域の絆を強めるためには地藏盆が大事な催しとなっているためできるだけ継承していきたいと思っています。

子どもの頃地藏盆は夏休み最大の楽しみであった。この楽しさをぜひ現代の子どもたちにも味わってほしいと思っているし、また、次世代に引き継いでほしいとも思う。町内の住民が一堂に顔を合わせるまたとない機会であり、特にマンション住民との交流を深めるきっかけにしたいと願っている。

市も中途半端に感染防止を謳っているため、こちらも開催してはいけないと言い切れず高齢者の説得に欠部分がある。まだ増えてきているので、はっきり公言して欲しい。

近年の異常気象で暑い日が多く、丸一日、二日、役員や子どもたち、高齢者の方が外で過ごすことで、熱中症など健康面での責任がとれず、心配です。今まで通り、子どもたちの声を傍に地藏盆を開催し続けたい気持ちと健康面での懸念。

自分の子ども（6歳）は1年で1番楽しみにしている地藏盆だが、自分が役員になったら、辞めたい人が多くて驚いた。この2年の中止で、本当にやめる方向になってしまうのではないかと危惧している。今年は22日に朝お坊さんと呼んで、高島屋の商品券を各家や子供に配って終わりです。

自分自身が幼い頃の良い思い出として地藏盆がある。夏休み最後の楽しみだった。地域の大人と子供が間近で接する機会として大切にしていきたい。

とにかく高齢者がほとんどで、後継者が期待できず、毎年決める役員さんも限られ、悩ましい事です。

子供達が楽しめる地藏盆を目指したい。

今の地域では、ご高齢の方が多く子供の数が少なくなっている。私が小学生位の時の地藏盆はとも子供の数も多く、福引きや遊び等が充実してました。最後は町内の皆さんでの盆踊りで締めくくってました。今、町内会会長として地藏盆に関わっていますが、子供の減少や新型コロナの影響での縮小で地域の方々との関わりがすごく少なくなっていると思います。

当町内でお住まいになっている家は一軒のみで、その他の会員様はビルのオーナーさんがほとんどです。住んでいる子どもはおりません。昔ながらの子どもたちのための地藏盆というよりも、年に一度それぞれのビルの関係者が寄る会となっています。しかし、これも意味ある事だと思えます。大日さんお地藏さんをお守りする連帯感を実感する時となっています。

私は40代ですが、自分が子どもの頃の地藏盆は、朝から町内の方がたくさん集まり、お地藏さんの近くに敷いたゴザの上に座っておしゃべり、上には子どもの名前入りの提灯がぶらさがり、ワクワクドキドキした雰囲気、特別な行事でした。我が子にも、地藏盆がそうあって欲しい。お地藏さんの前を通るときは、「いつも見守ってくれてありがとう」というような気持ちを持って欲しいですし、ずっと続けていきたい行事なのですが、やはり自治会員数が年々減って、子どもの数も減っています。ワイワイとした雰囲気を作り出すことが難しい。子どもが少ないと、大人だけで楽に終わらせようという方向に話がいつてしまう。それが残念です。地藏盆を開催するには、その前に自治会員数を増やすことが一番の課題かと思えます。そもそも、抜けていいという選択肢がある事が問題かと思えます。

子供がいても地藏盆自体がない町内が複数あります。同じ学区でも、町内によって差があります。

空き地がなくなり、加えて少子化であり、又地域の関心が薄くなり地蔵盆開催の難しさを感じています。しかし、お参りだけでも続けることにより見えてくるものを期待しています。

アンケートをとった結果について、新聞や報道で公の場で公開してもらい、世俗に対して活動に従事している者に対しての、労いと促進される援護となる取り組み、発言としてもらいたい。地域の活動に理解を求めることの困難な時代に民俗文化の伝統の継承という活動の草の根の活動をたやすことの恐ろしさを文化研究者の人や、都市研究の人などが話し合ってもらって活動の主軸を担ってもらいたい。議論にとどまらず、実際に地元の活動に参加してもらえ、同じ研究をされている若い人にも積極的に参加してもらい、体感される自治に学びの軸足をとおしてもらいたい。

昨年・今年と例年とは違う地蔵盆となり、来年以降の存続に大変危機感を持っています。地蔵盆は町内の結束にはなくてはならないものと考えていますので、来年以降も是非行っていけるよう、他の町内の人とも話し合っていければと思っています。以前上京区役所運営サイト「カミング」に関わっていたことがあり、そこで地蔵盆についての調査をしたことがありました。結果はまだ区役所にあるかと思っています。また、上京区の成逸学区は自治会が学区全体の地蔵盆についての調査が行われたことがあります。上京区は狭い区ですが地域によりいろいろな特色があり、また学区や町内の結束が大変強いので地蔵盆も面白いものが多いと思います。締め切りが過ぎていますがご参考にしていただければ幸いです。

地蔵盆の開催主体の町内会の先細り。

町内会では大きな事業（行事）の一つです。このあたりは、四ノ宮地蔵（京の六地蔵の一つ）があり8月22、23日に旧三條街道で夜店が outlet し、夏休みの子供達に大変人気があり家族も楽しみ、他の地域の人でも多数来られています。この夜店の前に地域の各町内で道路を一時通行止めをして独自のやり方で楽しんでいる様です。

子供が居なくなったので、地蔵盆をやる予定は、なし。

開催する際には呼びかけのちらしに“地蔵盆は寄付によって成り立っています。御協力よろしくをお願いします”という一文を入れています。しかし、寄付して下さるのはもうとうの昔に子育てを終えた世代の方ばかり。今現在子育て中である世代はもらうものはもらうけど寄付はしない（またその意味を知らない）ように思います。役員についても自分はしてもらったけど、人にしてあげる順番になると“町内会を抜ける”という手段で、お返ししようという精神がなくなっているように思います。

地蔵盆は、現在町内会唯一のコミュニケーションの場であり、大切な場となっています。この行事だけは何としても今後引き継いでいかなければと思っています。

私共のお隣の町内では、少し前から地蔵盆そのものをヤメておられます。子供がいないからとか、やる人間がいないというのが理由だそうです。時代と共にこういう行事が縮小、廃止されてゆくのはある意味しかたのない事かも知れませんが、私としては、できる限り次の世代へ、引き継いでいくのが良いと思います。一年間を通して見てみても、町内の人達が、一堂に会して交流できる場所は、現在のところ学区民体育祭と地蔵盆位しかないと思うからです。話は変わりますが、私共の町内は、隣組が、1組～7組までありますが、地蔵盆に関しては、私の知りうるずっと以前から、1組だけ、2組だけ、3組～7組と同じ町内でも3ヶ所に分かれて行われています。それで、私が町会長の平成27年に3ヶ所を一本化しようと（私は4組所属）1組と2組の年配の方に働きかけましたが、門前払いの状態ですらできずじまいに終わった経験があります。過去に何かあったみたいですが、長老筋の方に聞いても詳しくは話してもらえませんでした。このように京都の地蔵盆とひと口に言っても、地域、町内によって様々な形態や、問題が潜んでいるように思えてなりません。

地藏盆はご先祖様よりの大切な行事であり毎年きちっと行うべきであると思っている。特にお地藏様を個人的に信仰している人が少なからずおられるのでこの点に心を置いている。

本町は、過去の山城國愛宕郡浄土寺村の中心部です。遥か昔からお盆には「大文字送り火」行事を伝承してきました。親族が集まり、小学校一年生の頃から山に登り、作業を教えて貰いました。現在と違い多くの子供達が近所の広場や大文字山で自由に且つ密に遊んだ時代でした。地藏盆もビンゴもイベントも大したおやつも無く、只賑やかに西瓜を食べた記憶が残っています。その後、徐々に子供達の数が少なくなり、福引・ビンゴ・ゲーム・アトラクション等費用を掛けられる様になり、行事としては充実してきたと思われませんが、賑やかさにはどうしても欠けます。私の子供の頃には、お盆の「盆踊り」や「映写会」、「大文字送り火」や「肝試し」があって、「地藏盆」より記憶が鮮明に残っております。現在の子供達にどれだけ「地藏盆」の記憶が残ってくれるか、やや心配です。何とか若い世代が転入してくれる様な地域にどうすれば出来るか、又、近隣の町内と合同で「地藏盆」が出来ないか、課題が多くて大変な時代になっています。

お地藏さんのない町内や子供さんの少ない町内等が数多く出てきています。その為数町内及び地域まとまったの開催も今後考えるべきかと。その時は行政の指導も頂けたらと思います。

地藏盆開催につき、2年連続縮小、時短といたしました。行事内容は、早朝のお地藏さんの周辺草刈り、お地藏さんのふきそうじ、よだれかけの交換を行うが、提ちんのか飾りつけは行なわない。また、ゲーム、スイカ割り、スマートボールすくいも中止（三密をさける対策）。例年ですと、テント設営（雨対策）、各世帯へのお下がり配布、子供おやつ配布（おやつ券）を行っている。普段ご近所で顔を合わせてもごあいさつをする程度でも、地藏盆の際には交流・コミュニケーションもとれ、皆様が楽しく談話する様子が伺えます。年齢は30～80才、昔の地藏盆と現代の地藏盆の違いなど、高齢化、少子化の社会の今後の地藏盆のあり方の見直し等、参集の町内会の方に聞ける場所でもあります。

もともと町内にお地藏さん本体は無く行事だけを行っていたが少子高齢化のあおりで町内会の中に子供がいなくなり今後の開催に不安を持っている。

町内会全体が高齢化し、町内会自体が存続するかどうか 又地藏盆を先行きどうなるか。

地藏盆（大日如来）は隣近所の方々と楽しく一日を過ごすとてもすばらしい行事だと思います。これをやっているおかげで皆さんとても仲よく生活できています。今は、コロナの為、なかなか開催できませんが…一日も早くコロナが治まりますように（10年位前は2日間やっていました）。

私達が子供の頃は、中学生と高校生のグループ（中高会）が小学生、幼児の面倒をみて、運営していた。20～30年前からは、子供の数も少なくなった事から、大人目線で大人が全て運営するようになった。もうあんな時代はこないかなあ～。なつかしい思い出です。

先づ子ども達の地藏盆行事に期待する意見を取り入れて行く為の合同会議を実施し、本来の地藏盆行事(例. 僧侶の読経、子ども福引等)は残し、夏休みの工作ではありませんが「ものづくり」(例. ドライアイス、牛乳で作るアイスクリーム、プラトンボ、ガリガリ棒)等、子ども達が喜び楽しめるプログラムを考える必要があると考えます。しかし、コロナ感染が収束する兆しが見える事が安心して行事を施行・参加出来る事に繋がります。

住民の安心、安全、子供の成長を願って毎年住民の寄付によって行うことにより絆が生まれる。

地域の伝統である地藏盆行事を守り伝えていきたいです。お手伝いの方が若い方々に出てもらうことを願うのですが、なかなか無理ですね。

1. 地域・町内の重要な親睦の場所・時間となっている。2. 新型コロナ・ウイルスの感染拡大により、人々の気持ちの在り方が変化しているのではないかと心配している。(個々が、バラバラになりつつあるのではないか?) 3. 「地蔵盆」が地域住民の心の依り所という意識が薄れつつあるように思われる。

永年続いています。以前は2日間実施していました。しかし、仕事があるのでお世話係が2日間も無理、又、減少していく子供達で、大人ばかりが目立つ地蔵盆になりました。実施日を一日にしてなるべく早く仕事を切り上げるなど考え、今は防災訓練を行事に入れ、大勢の参加者があり、一年に一度、地域の交流の場ともなっている。コロナ禍で今年も実施出来ないのが残念だ。

自分の子どもは成人したけれど、小さな頃にみんなで集まる地蔵盆はとても楽しかったと言っていた。今の子どもにも楽しく過ごせるイベントとして続けていけたら良いと思う。早くコロナが落ちつくことを願います。

子供が多かった時は福引きはもちろん、手作りのちらしずしやおにぎり、ナスのごまあえ、筑前煮といろいろと作った事もありました。少子高齢化になり地元に住む子供達が少なくなり今では、お年寄りの地蔵盆になりつつあります。

昭和四年ごろから毎年実施されています。8月28日に実施4組ほどの組で持ち回りで担当して貰っている。学区内に六地蔵があり、2日間実施し、夜店の出店もあります。8月22日、23日の六斎念仏も復活しました。

町内に子供も少なく、年配の方が多く成り、お地蔵様の飾り付けも大変で、先の事を考えると代表者か、有志の方達だけでお寺へお参りに行く事に成るかも判りません。

年代不詳ながら、町内が合併したため、六体地蔵(石仏6体)江戸時代後期と思われるものと地蔵菩薩像2体、掛軸1本→(ご本尊様と読んでいるが)2ヶ所で祀る為、毎年、総出で作業をしていますが、年々、世代交替が進み、全体を仕切る会長職の人材不足が悩みの種です。

昔は地蔵盆2日間あり、1日は町内リクレーション(懇親会として秋に行く。主に大人)で出かけたが、今は1日になり、子ども中心の行事、福引きも子どものみとなった。

実行単位を単独にお町内から複数の町内へと単位を広げないと継続しないと思います。“子供の数”の減少が著しい。昔は(昭和23年くらい)周囲が田んぼばかりで、家も勿論少ないのだが、家族が多かった。子どもも多かった。現在のよう核家族化が進んでいなかった。今は、個人の考え方や、遊びの多様化で近隣とおつきあいが希薄になっているのではないのでしょうか。コロナが余計にそうさせていますね。行事が皆中止になっているため、役の引き継ぎ、行事の引き継ぎが少しずつ難しくなってくる心配があります。私は、こども安全みまもり隊事務局長をさせて頂いて11年目になり、子供たちを毎日学校まで付き添って送って居ります。毎日ですよ!先日の京都新聞に掲載されておりましたが、親御様が自分の「子共の登校を見守る日数が多すぎる」などの苦情記事が載って居りました。親も共働きしなければならぬ状況や、「ひとり親家庭」が有る中では益々人と人の心・気持ち・協力・協働感が薄れていきますね。

その時期に菓子だけ子供に配っているが(それが30年以上続いている)、その時期だけでも地蔵尊のご開帳、お飾り、お供えだけくらいは再開したいと考えている。

子供達が少なくなりお年寄りの方も出てきてもらえなくなりこれからも続けて行けるか心配です。

当町周辺の地蔵盆は僧侶の読経とともに、数珠回しを参加した小学生などの子ども達やその親御さんなどの地域の大人によって行うものです。近年、新たに転入されてきた方の中には外国人の方もおられ、以前はアメリカやヨーロッパの国々の出身の方が多くいたと思いますが、近年はヒジャブを頭に覆う女性の方も多く見られ、イスラム文化圏の国々の出身者と思われる方も多くいらっしゃいます。地蔵盆は宗教の違いに関係なく参加できますが様々な宗教を信仰する地域の方々を理解する必要があると思います。今年も地蔵盆の開催は中止になりましたが、8月16日にお精霊送りといって、修学院のほか、上高野、一乗寺、高野、松ヶ崎、田中のお寺や児童公園、掲示板前などの指定場所に容器を置き、お供物を入れる催しが行われます。自分達の亡くなった御家族や先祖を供養し、感謝する時間になればと思います。

築47年のマンションで住人の平均年齢も高く、これからの地蔵盆の開催もだんだん困難になって行くと思います。

運営は町内会長さんをはじめ、各組長さん、地域委員さん等であり、町内会長さんの役割が大きいと思います。

例年、道路使用許可を取っているので一昨年はテントを1張り(3m×6m)を新調し、ミストシャワー2台を用意して暑さ対策をしました。

近年、地蔵盆に限らず若者の人口流出がこの地域の大きな課題となっています。原因の一つとして、行政が今迄この地域に課してきた市街化調整区域等への厳しい規制が考えられます。由緒あるこの地域が、「行政の規制が生み出す大都市近郊における限界集落」とならない様に地域の活性化に向けた規制の見直しを望みます。

昨年、今年と縮小された地蔵盆になり残念ですがコロナが終息し今までの様な活気のある子どもも大人も楽しめる内容の地蔵盆ができることを祈っています。

大日地蔵さんは8月28日にお祀りしているが昨今8月20日過ぎより学校が始まり大人達だけで行う行事(祭事)となりつつある。学区内でも大日地蔵さんを地蔵盆としているところも多く「こどもがいないから…」となくなったところもあると聞く。世の中の仕組が変わっても人と人を繋ぐ伝統行事は大切にしていきたいし、次世代にも伝えていきたいと思っています。

団地住民の横のつながりを強めるために、夏まつりは重要なイベントの一つだと思っています。2年前に自治会会長をした時に団地住民(全世帯を対象)の横のつながりを強める為に、各棟のイベント(歌ごえ、親子で一緒に遊ぼう、おしゃべり会、健康教室、健康体操、高令サポート、警察の話、防災訓練(消火器、AEDの使用訓練)等)を山科区の「山科きづな支援事業」に申請し認可されました。参加された住民には喜んでもらいました。この2年はコロナの感染拡大防止の為申請できません。おちついたら申請しようと思っています。

当地蔵盆には五色のリボンで素麺を編み上げ芯は麦藁の束を和紙で巻いた所に縛り付けて仕上げます。それを一対にして供えています。

・私の子供(すでに43才、40才、35才)の提灯も作り、孫(15才、13才、8才)の提灯も作って地蔵盆の時に吊したりしています。最近の親御さんは、子供のすこやかな育ちを願って提灯等は、ほとんど作らないです。京都の伝統的な行事の地蔵盆…理解しておられるか不明です。
・年々世話をする者が高齢化しており、準備が大変です。
・子供の人数より、年寄の人数が多く…イス等の準備が大変です。

東山の地蔵盆はたいへんにぎやかで、京都市内ではいちばんと思っている、大きなテントを3張り、夜はビアパーティを行い、お年寄りのいいの場ともなっている。

マンション建設が町内を大きく変えた。入居してくる人は町内会に入って伝統を守るという理念はもっていない。むしろ役のがれで入居してきたと言う人もいる。

公立小学校の集合地蔵盆の案は旧来の「学区」再来のメリットあり。例えば灯明等の「裸火」の使用や時間など制限は多いと思うが、京都市として前向きな検討があっても良いのでは。

町内会という制度がもはや昭和の産物、制度として成り立っている…。この「地域」という言葉、いかにニュースで都合よく使われているか。個人的にはすでに失われつつある文化だと感じる。なお、京都には学生の時から住人で約二十年になります。地蔵盆のない関東で生まれ育ったものとしてはなじみがなく、そういった文化的な意識のない物が、町内会長になっている時点で無理が生じているように思われます。

学区全体で高齢化が進む中、お世話が出来ず、地蔵盆が出来なくなっている町内が多い。それによって学区で顔を合わせる機会が少なくなり、寂しくなっている。町内会長に責任感、物事をつたえる人が少ないのでは…。この歴史を大切に人が少ない。当学区では菊浜まちづくり会を作り、学区活性化を計っているが問題は多い

- ・昔は子供が大勢いましたが、現在はほとんど子供はいません。地域の地蔵盆の内容が、子供から大人・お老人むけに変わっている。
- ・町内の重要なコミュニケーションの場所であるが、町内役員の負担となっている。→内容を縮小してやる→やめる

当町内会にはお地蔵さんが無いので子供会という名前で毎年開催しています。

中年以下の方々にご理解、お世話いただくについて通年通りの地蔵盆が町内組持廻り順で若い人々に引継がれて行けば幸いです。その為には早いコロナ終りの強力な対応策を進めてほしい。

昭和45年に現地＝元鐘ヶ淵紡績・山科工場の滋賀県長浜市に移転の後地に、京都市市営住宅として、集合住宅が建造されて、更に住宅公社分譲住宅が、増設を図った。当住宅は、昭和47年度に完成し、建設資材の用地が、小公園として設置された事に拠り、当時の入居者の子供が多数に及んだ事から、直に小公園内に「お地蔵さん」を設けた。お地蔵さんは【地蔵菩薩像】で、錫杖と宝珠を携えた、姿は本格的である。地蔵盆の参加状況は、平均して、大人40名・子供50名位が集まり、盛上げて居る。毎年例会として、地蔵盆を継続開催して、隆盛を極めて居たが、昨年、初めてコロナ禍の関連の処置を話題として、中止に至った。だが子供達の強い熱意を勘案して、本年は開催を目指す事と為ったものである。

現代は町内のコミュニケーションも少く、子供達も、自分達が見守られていることを意識することによって、自分自身を見つめることができる。お地蔵さんの前を通る度、見つめ守ってくれているよと、1年に1度でも子供に通えることが大切だと思う。京都のいい習慣だと思う。